

患者視点でがん医療に求めること

望まれる医療連携システムの構築

— 退院後の空白を埋める医療 —

発表者： 緒方 真子
神奈川県立がんセンター
患者会「コスモス」 世話人代表

I. 退院後の患者の現状

入院日数が短くなった → 退院後の医療の空白

不安大

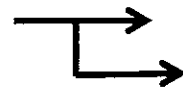
- ※辛い身体症状をかかえたままの退院
- ※再発や社会復帰への不安をかかえたままの退院
- ※民間療法、健康食品への戸惑い
- ※通院治療増に伴う心身の負担大
- ※寄り添う医療、相談先が不在
- ※特に、一人暮らしの患者の不安は深刻

医療連携の必要性大

II. 退院後の医療連携の現状

連携不十分

訪問看護



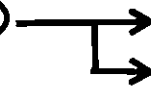
ほとんど末期患者の為のみ
必要としている患者に届いていない

緩和ケア外来



不十分

身近な病院やかかりつけ医



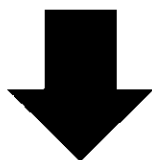
連携が徹底していない
患者や家族にその概念がない

Ⅲ. 望まれる空白を埋めるシステム

退院と同時に、必要とする患者に自動的に届く医療連携

- ※ 訪問看護
- ※ 緩和ケア外来
- ※ かかりつけ医
- ※ 身近な病院

メリット



- ・短い入院期間への不安軽減
- ・社会復帰・自分復帰への支え
- ・自然な形で、終末医療へ